

# DNP

株主通信

## DNP Report Vol.97

(証券コード：7912)

[特集] 次世代のクルマ社会の実現に向けて「新しい価値」を提供





## トップメッセージ

株主の皆様には、ますますご清栄のことと心よりお慶び申し上げます。また日頃は格別のご支援を賜り、誠にありがとうございます。

本年は5月に元号が新しくなり、日本全体が新しい時代への歩みをスタートさせます。また、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会、2025年の大阪・関西万博に向けて、期待が高まっていくことでしょう。

当第3四半期連結累計期間(2018年4月1日～12月31日)の国内経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善を背景に、緩やかな回復基調が続きました。しかしながら、個人消費は力強さに欠け、天候不順や地震等の影響もあり、本格的な回復には至りませんでした。また、印刷業界では、デジタルコンテンツやインターネット広告の市場拡大などによる紙媒体の需要減少および競争の激化や原材料価格上昇の影響もあり、厳しい経営環境が続きました。

そうしたなかで、DNPグループは、今後の事業において注力していく成長領域として「知とコミュニケーション」「食とヘルスケア」「住まいとモビリティ」「環境とエネルギー」の4つを掲げ、事業の拡大に努めています。DNP独自の「P&I(印刷と情報)」の強みを掛け合わせて、社会課題を解決し、人々の期待に応える「新しい価値」の創出に力を入れていきます。

## 「次世代のクルマ社会」実現に向けて

例えば、こうした取り組みのひとつとして、今回の「株主通信」では、環境負荷の低減やエネルギー効率の向上、より高い情報セキュリティや一層の安全性・快適性が求められる「次世代のクルマ社会」に対するDNPのビジネスをご紹介します。

現在、温室効果ガスの濃度上昇による地球温暖化の影響を抑えていくため、再生可能エネルギーの利用拡

## ■DNPの「4つの成長領域」



### 知とコミュニケーション

世界の人々が安全・安心にコミュニケーションの機会を拡大し、知を交換・継承できる未来

### 住まいとモビリティ

世界の人々が暮らし、移動するあらゆる生活空間が安全・安心に保たれている未来



▶ 407  
兆円

DNPの  
事業化テーマ  
関連市場・  
ターゲット数値

移動弱者のいない  
スマートモビリティ社会の実現  
2050年コンシューマー向け  
モビリティ・サービスの経済規模  
\*インテル試算Passenger Economyの経済効果



### 食とヘルスケア

世界の人々の生命への不安が解消され、生涯にわたって、安全・安心で質の高い生活を全うできる未来

### 環境とエネルギー

地球環境への負荷を減らし、世界の人々と地球が共生できる持続可能な未来



# 「変革への挑戦」を繰り返して 「新しい価値」を創出し、持続的な 企業価値の拡大をめざします。

大や自動車の電動化などの動きが加速しています。DNPは、電気自動車等に使うリチウムイオン電池のバッテリーパウチで世界トップシェアを獲得しているほか、車体の軽量化につながる曲面樹脂ガラスの開発などを進めています。また自動車車内のフロント部分等に使用される木目パネルなどの内装材の実績を拡大するとともに、サイドバイザーなどで高い実績を持つグループ会社のDNP田村プラスチック株式会社との相乗効果もさらに高めていきます。

自動車の快適性や安全性の向上に関しては、フロントガラスへのカーナビ画面などの光の映り込みを防ぐ「視野角制御フィルム」などを開発、提供しています。また、自動運転の普及に向けて、情報セキュリティ機能の向上の重要性が高まるなか、暗号化技術等を活かした各種セキュリティソリューションや、個人を特定する認証サービスなどの提供に努めています。

\*詳しくは「特集」(P3-5)をご覧ください。

## 当期の業績と今後の見通し

DNPは、新しい価値を創出するさまざまな取り組みを推進し、中長期にわたる企業価値の拡大に力を入れています。

そのなかで、当第3四半期連結累計期間につきましては、連結売上高が1兆463億円(前年同期比0.4%減)、

連結営業利益は361億円(同10.9%増)、連結経常利益は414億円(同14.4%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は254億円(前年同期は32億円の損失)となりました。

また、2019年3月期の通期連結業績は、連結売上高1兆4,200億円(前期比0.5%増)、連結営業利益470億円(同1.4%増)、連結経常利益520億円(同2.0%増)、親会社株主に帰属する当期純利益280億円(同1.8%増)を見込んでいます。

利益の配分については、これまでと同様に株主の皆様への利益還元を経営の重要政策と位置づけて、安定配当を行うことを基本とし、業績や配当性向などを勘案して実行していきます。同時に、将来の事業展開に備えて、内部留保を確保し、経営基盤の強化を図っていきます。この方針に基づき、当期の期末配当金は、期初計画通り1株につき32円とさせていただきます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご指導とお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

代表取締役社長 よしなり 北島 義斉

[特集] 社会課題の解決につながる“新しい価値”の創出

## 次世代のクルマ社会の実現に向けて「新しい価値」を提供



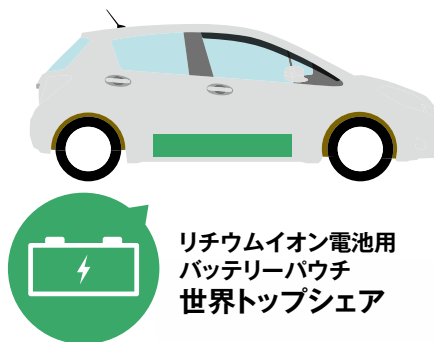
### 自動車を持続可能な社会の実現につなげる取り組み

#### ■ 車載用電池需要の拡大を支える

電気自動車（EV）の走行性能の向上や省エネに向け、バッテリーの大容量化、軽量化などが進められています。EVで使われるバッテリーは現在、多くのモバイル機器と同様、リチウムイオン電池が主流となっています。

DNPは、リチウムイオン電池が実用化されて間もない1990年代から、従来の金属缶に代わる、フィルムを用いたリチウムイオン電池の外装材（バッテリーパウチ）の技術開発に取り組み、薄型・軽量で長期耐久性に優れる製品を実現。ノートパソコンやスマートフォン、タブレット端末といった電子デバイスの軽量化・薄型化に貢献してきました。

DNPのリチウムイオン電池用バッテリーパウチは、EV用電池に求められる、薄型・軽量・大容量化に適しており、モバイル端末での長年の実績に基づく機能と長期信頼性によって、世界の市場で高いシェアを獲得しています。



リチウムイオン電池用  
バッテリーパウチ  
世界トップシェア

バッテリーモジュール（電気自動車などに搭載）  
※バッテリーパウチを用いた電池セルを複数連結させたモジュールの模型



バッテリーパウチ  
（スマートフォンなどに搭載）

#### ■ 曲面樹脂ガラスの開発

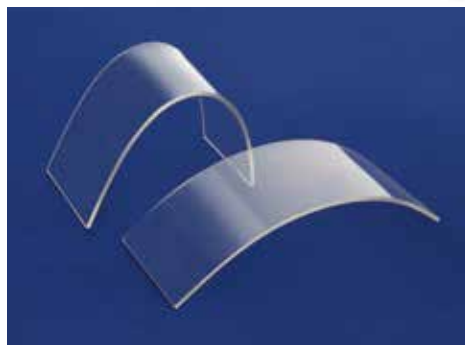
自動車メーカー各社はエネルギー効率の向上などを目的に、車体の軽量化に取り組んでおり、耐衝撃性や断熱性に優れ、ガラスよりも軽いポリカーボネートなどのプラスチック製の樹脂ガラスへの期待が高まっています。

DNPは2016年に「DNP 超耐候ハードコート転写フィルム」を開発し、樹脂の表面にハードコート層を転写して、太陽光や風雨等に対する耐候性と耐摩耗性を向上させた樹脂ガラスを開発しました。2017年には、この転写フィルムを改良し、自動車のリアウィンドウやサンルーフなどの曲面形状にも使用可能な「曲面樹脂ガラス」を開発しました。



湾曲した大型部品にも最適

曲面加工性をさらに高め、屋根部分のルーフポイラーやテールランプカバーなど、デザイン性に富む機能部品を一体成形するリアウィンドウなどへの展開を可能にしました。（※上の車はイメージ）



曲面樹脂ガラス

最大で、半径30mmまでの曲げ加工が可能です。

上：半径30mm曲げ加工品 下：半径80mm曲げ加工品

人と地球にやさしい「次世代のクルマ社会」を牽引するキーワードが「CASE」\*1です。電動化された自動車が情報ネットワークに常時接続し、自律的な走行を実現。また、人々が運転から解放されることによって、車内が多様な活動の場、心地よい生活空間へとシフトする可能性も高まります。プライバシーの保護、デザインや内・外装の印象や質感の向上など、快適性を高める製品・サービスも注目されています。DNPは、自動車メーカーやパートナー企業とともに、これらの課題解決につながる新しい価値の提供に取り組んでいきます。

次世代のクルマ社会のキーワード

CASE



\*1 CASE：外部・相互接続性を高める[Connected]、自律走行の実現をめざす[Autonomous]、カーシェアリング等のニーズに対応する[Shared]、電気自動車(EV)の[Electric]という4つの言葉の頭文字からなるコンセプト。

## 快適で安全・安心な移動空間の実現に向けて

### ■ 樹脂成形品の意匠性・持続性を高める「内装加飾」

DNPは、1950年代に住宅用建装材の開発に着手し、1980年代には射出成形と同時に多様なデザインを施すサーモジェット®工法や、水圧で絵柄を曲面に転写するカールフィット®工法など、複雑な立体形状のプラスチック成形品への加飾システムを開発しました。パーソナルな空間とも言える自動車の意匠性向上へのニーズは高く、DNPは培ってきた技術を活かして、内装および外装のデザインの可能性を広げていきます。

特に近年、内・外装品として注目されているのが、意匠性と機能性の自由度を高める「加飾フィルム」です。

高度な印刷技術をもとにDNPが開発した内装用加飾フィルムは、木目や金属、カーボン調などさまざまな意匠表現に加え、艶あり／艶消し、微細な凹凸といった加工

も可能です。背面から照明を当てることで内装部品の柄や色を変化させる「バックリット加飾」など、新しい独自のデザインにも対応しています。また、環境負荷の高い塗装工程の代わりとしての、外装加飾フィルムの開発にも取り組んでいます。



射出成形と同時に、表面の凹凸などの触感を付与できる加飾フィルム。

背面の照明OFF



背面の照明(白)ON



「バックリット加飾」フィルムの例 ドアトリム(ドアの内側部分)やインパネ(計器盤)回りの内装パーツに使用して、背面から照明を当てることで、柄や色を変化させることができます。

### ■ セキュリティソリューションの開発、提供

DNPは、人々が移動する空間を安全・安心なものにするには、情報セキュリティの高度化が不可欠であると考え、多様なセキュリティソリューションに取り組んでいます。

DNPが国内で高いシェアを持つICカード事業では、1980年代から各種ソフトウェアの開発、カードの製造・発行、認証サービスなどを展開してきました。また、企業の業務プロセスを担うBPOサービスにも力を入れており、重要性・機密性の高い膨大な情報を扱っています。そのなかで、

個人を特定する認証技術や、安全にデータをやり取りする暗号化技術などを高め、さまざまなリスクに対する適時・適切なソリューションの提供に努めています。

例えば、自動車や家、宅配ロッカーなどの各種シェアリングサービスやIoT機器の利用者認証用デバイス向けに、実際の鍵の代わりにスマートフォンアプリで電子鍵(デジタルキー)を提供し、鍵の開閉を行えるサービスのプラットフォームを開発、提供しています。



# フロントガラスへの映り込みを防止

## ■ 車載ディスプレイ用視野角制御フィルムを開発

DNPは、カーナビなどの車載ディスプレイに使用して、フロントガラスへの光の映り込みを防止する「視野角制御フィルム」を2015年から提供しています。この製品は、DNPがディスプレイ用の光学フィルムなどで培った光制御技術と微細加工技術を活かし、フィルム内の微細なルーバー（ブラインドの羽根に似た凹凸）形状によって、光の進む方向を制御するものです。また、画面の明るさと見やすさを向上させる機能も備えています。車載ディスプレイのバックライトに内蔵させて光が出る方向を制御することで、フロントガラスへの映像の映り込みを防ぎ、夜間でもドライバーが前方を見通しやすくします。

視野角制御機能の改善は継続して行っており、正面や上方・下方、左右など任意の方向にディスプレイの光を向けられるようにして、ディスプレイの設置場所や角度など、デザインの自由度を高めるフィルム製品なども開発しています。

高い映り込み防止性能(夜間のフロントガラスのイメージ)  
\*当フィルムを搭載すると光の映り込みが大きく低減できます。



### DNPグループ会社紹介

## DNP田村プラスチック株式会社



## 高度な成形技術で モビリティ事業の成長に貢献

DNP田村プラスチック株式会社は、約60年の業歴を持つ大手自動車用品メーカーです。金型や樹脂成形の優れた技術を活かし、長年にわたって自動車用サイドバイザー（雨よけ）の国内トップシェアを維持し、Tier I（一次サプライヤー）として自動車業界で実績を重ねてきました。

2015年からDNPグループとして、多様な強みの掛け合わせによるグループ内の連携を深めながら、研究開発および製品開発を進めてきました。2018年に発売した、自動車のボディを飾る装飾パネル（ガーニッシュ）は、同社の成形技術と、DNPが生活・産業部門やエレクトロニクス部門で培ってきた高機能フィルムの技術を掛け合わせて実現した製品のひとつです。

今後も相乗効果を高めながら、より高付加価値なサイドバイザーや内装用の部品など、競争力ある新製品の開発、提供に努め、モビリティ事業のさらなる発展をめざしていきます。



サイドバイザー(雨よけ)



サイドガーニッシュ(装飾パネル)

### 会社概要

名称:	DNP田村プラスチック株式会社
本社所在地:	愛知県小牧市小木東3丁目41番地
設立:	1963年8月
資本金:	6,000万円
事業内容:	自動車用品および部品の製造販売
出資比率:	100%
ウェブサイト:	<a href="https://www.tamura.co.jp/">https://www.tamura.co.jp/</a>



ショールーム

# 第3四半期決算のご報告 (2018年4月1日から2018年12月31日)

## 連結業績の概況 (単位:億円)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

科目	当第3四半期	前第3四半期
売上高	10,463 (△0.4%)	10,509
営業利益	361 (10.9%)	326
経常利益	414 (14.4%)	362
親会社株主に帰属する 四半期純利益	254 (—)	△32

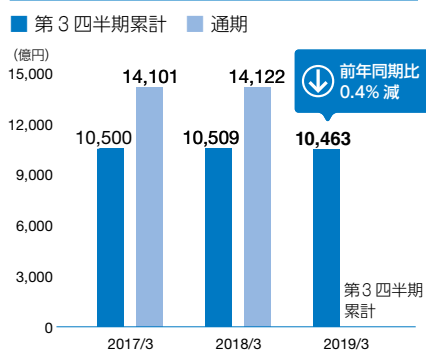
## 連結業績の予想 (2019年3月期通期) (単位:億円)

(%表示は、対前期増減率)

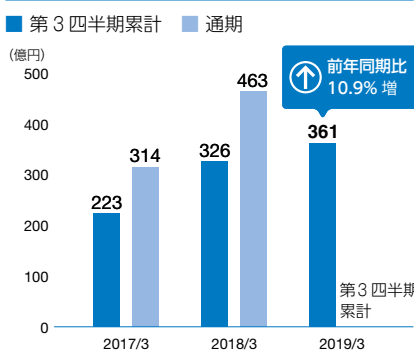
売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
14,200 (0.5%)	470 (1.4%)	520 (2.0%)	280 (1.8%)

1株当たり当期純利益92円80銭

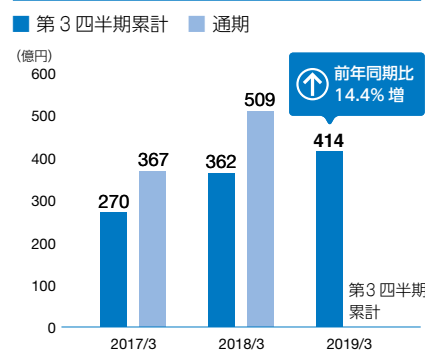
### 連結売上高



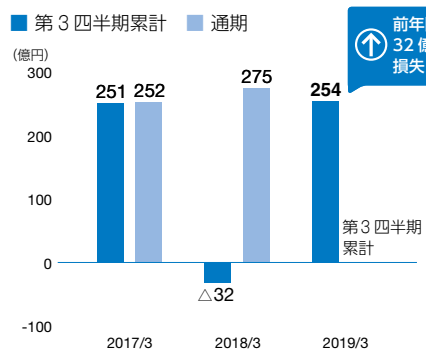
### 連結営業利益



### 連結経常利益



### 親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益



### 連結貸借対照表(要約) (単位:億円)

科目	当第3四半期 連結会計期間末	前連結会計年度末
資産	17,296	17,947
流動資産	7,508	7,800
固定資産	9,787	10,147
負債	6,320	6,922
流動負債	4,429	4,385
固定負債	1,890	2,536
純資産	10,975	11,025

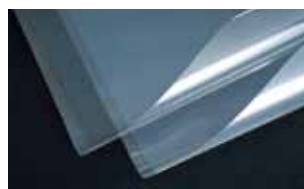
### 印刷事業



BPOセンター



各種パッケージ



液晶ディスプレイ用反射防止フィルム

### 清涼飲料事業



清涼飲料

#### 情報コミュニケーション部門

売上高	5,644億円
前年同期比	2.0% 減
営業利益	168億円
前年同期比	10.4% 増

紙媒体の需要減により、出版関連などが伸び悩みましたが、BPOが増加したほか、POPなどの販売促進用ツールが堅調に推移しました。

#### 生活・産業部門

売上高	2,983億円
前年同期比	0.7% 増
営業利益	61億円
前年同期比	36.0% 減

リチウムイオン電池用パウチなどの産業資材関連が増加しましたが、紙のパッケージやペットボトル用無菌充填システムなどが減少しました。

#### エレクトロニクス部門

売上高	1,463億円
前年同期比	4.8% 増
営業利益	279億円
前年同期比	18.9% 増

薄型ディスプレイ用の光学フィルム、有機ELディスプレイの製造に使用するメタルマスクおよび半導体製品用フォトマスクが増加しました。

#### 清涼飲料部門

売上高	422億円
前年同期比	1.9% 減
営業利益	21億円
前年同期比	0.8% 増

主力ブランドの新商品を発売したほか、販促強化などを行いました。夏季の天候不順や震災の影響などにより販売が減少しました。

## DNPウェブサイトのご案内

当社ウェブサイトでは、最新ニュースやIR情報など当社をご理解いただくためのさまざまな情報を提供しています。



### ● DNPウェブサイトURL

トップページ→ <https://www.dnp.co.jp/>

株主通信「DNP Report」はこちら→ <https://www.dnp.co.jp/ir/library/dnp-report/>



〈トップページ〉



〈IR情報トップページ〉

## 会社情報

商号	大日本印刷株式会社 (Dai Nippon Printing Co., Ltd.)
本社所在地	東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
ウェブサイト	<a href="https://www.dnp.co.jp/">https://www.dnp.co.jp/</a>
創業	1876年(明治9年)10月9日
設立年月日	1894年(明治27年)1月19日
資本金	1,144億6,476万円
発行済株式総数	324,240,346株 (自己株式 22,407,116株を含む)
株主数	27,696名

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会開催時期	6月
上記総会における議決権の基準日	3月31日 その他必要のある場合は、取締役会の決議によりあらかじめ公告して設定します。
剰余金の配当基準日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所
公告方法	電子公告により行います。 (当社のウェブサイト <a href="https://www.dnp.co.jp/ir/">https://www.dnp.co.jp/ir/</a> ) ただし、事故その他やむを得ない理由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

### 株式事務に関するご案内

#### 1. 住所変更、配当金受取方法の変更等のお問い合わせ先、お手続き窓口

- 一般口座(証券会社の口座)にある株式 株主様が口座を開設されている証券会社の本支店
- 特別口座(みずほ信託銀行の口座)にある株式  
(お問い合わせ先) みずほ信託銀行 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)  
(お手続き窓口) みずほ信託銀行 本店および全国各支店(トラストラウンジを除く)  
みずほ証券 本店および全国各支店 プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)

※ご転居の際には、住所変更のお手続きを、必ずお願い申し上げます。

#### ※単元未満株式に関するお知らせ

100株に満たない株式(単元未満株式)を所有されている株主様が、当社に対しその単元未満株式と合わせて1単元(100株)になる数の株式を買増請求できる「単元未満株式の買増制度」を導入しております。また、単元未満株式の買増請求につきましても、お取り扱いしております。

#### 2. 未払配当金のお支払窓口(払渡し期間経過後の配当金領収証によるお受け取り)

- (お支払窓口) みずほ信託銀行 本店および全国各支店(トラストラウンジを除く)  
みずほ銀行 本店および全国各支店  
(取次所) みずほ証券 本店および全国各支店 プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)



**DNP**  
大日本印刷



東京2020オフィシャルパートナー(印刷サービス)

**DNPは、東京2020オリンピック・パラリンピックの  
オフィシャルパートナー(印刷サービス)です。**

### ●株主通信「DNP Report」に関するお問い合わせ先

大日本印刷株式会社 コーポレートコミュニケーション本部IR室

〒162-8001 東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号 TEL: 03-3266-2111(大代表)

※当株主通信は、DNPの事業ビジョンや業績に関する情報の提供を目的としています。記載された意見および予測は、作成時点でのDNPの判断に基づいたもので、これらの情報の完全性を保証するものではありません。 ※記載されている会社名、製品名は、それぞれの会社の登録商標または商標です。